



資料編

資料 1

先進事例調査結果概要

①NPO法人ふじさんスポーツコミッション協会(静岡県富士山麓周辺市町村)

■活動目的

- ・富士山山麓及び周辺地域にあるスポーツ資源や様々な観光資源を最大限活用し、スポーツ・レジャー関連イベントの誘致・提案・運営のワンストップサービスとして施設・宿泊・交通の手配等、様々なイベントサポートを行なうとともに、地域スポーツ振興と地域経済の活性化を図ること。

■主な事業

- ・行政からのイベント企画・運営委託、施策の調査
- ・企業からのスポーツに関わるタイアップ(プログラムの提案、運営等)
- ・合宿などの相談(合宿コーディネート、施設・宿泊・移動、プログラム提供、人材提供)等のワンストップサービス
- ・サイクルステーションの運営



富士箱根トレイル&サイクルステーション(写真：ふじさんスポーツコミッション facebook)

■設立の経緯

◆自治体が始めた事業の継続目的

- ・きっかけは、自治体が始めたスポーツツーリズム育成支援事業である。それが、3年で終了することになったので、蓄積したノウハウを活かし、事業を継続するために任意団体を設立した。

◆自治体の事業を請け負うようになり、NPO法人化へ

- ・任意団体での活動が周辺の自治体に認知され、事業を受けることになった。2012年NPO法人化。

■特徴

◆既存資源の活用

- ・各自治体や各種団体が持っている既存の資源を活用。そのためにも、各自治体や各種団体との連携を密にしている。

◆地元行政との関係

- ・ほとんどの活動について行政から後援を受けている。これにより、ふじさんスポーツコミッション協会自体の信頼性を高めることができる。

- ・行政から地域におけるスポーツに関する相談を受ける関係性をつくっている。これにより、施設を利用するときに円滑な施設利用につながることもある。
- ・課題としては、行政の人事異動の際に行政内でうまく引継ぎがされていないことが挙げられる。

◆自治体同士の連携を図る

- ・特定の自治体に絞るのではなく、自治体同士を連携させることに主眼を置いている。これにより、それぞれの自治体の資源を活用することができる。

◆連携している団体の強みを活かす

- ・固定メンバーでの対応だけでなく、事務局で地域の団体等の強みを把握し、状況に応じてふさわしい団体に関わってもらっている。

◆大学などとの連携によるスタッフ確保

- ・組織形態については、コアメンバーが中心になり、依頼や相談があったときに必要な人材や資源を用意する(依頼する)。要望に応じて組織形態が変わる形である。主なメンバーについては、3つの大学(静岡大学、東海大学、順天堂大学)の教員が関わる事業が多い。
- ・併せて、登録ボランティア制度がある。その中には一般ボランティアと専門ボランティアがあり、専門ボランティアからは、それぞれの人の専門的な情報を提供してもらっている。

◆経費をなるべく抑える工夫

- ・協会では、経費をなるべくかけないように工夫している。その一つとして固定スタッフを少なくし、人件費をできるだけ抑えるようにしている。
- ・スタッフには、定期的な給料ではなく、その活動に関わった都度を手当を支払うようにしている。
- ・協会の事務局員は1名である。事務局員についても活動に関わった時に手当が支払われることになっている。
- ・必要な人材の確保は、例えば、調査や実証実験を行なう際には、大学と連携して行なうなどの方法がある。この場合、その調査や実証実験を卒業研究でテーマにする学生達にスタッフとして手伝ってもらい、WIN-WINの関係をつくっている。予算は多くないが、このように大学や様々な地域の団体などとの関係性(人的資源)を活かして活動を広げることにより、費用を抑えることができている。

②(一社)志摩スポーツコミッション(三重県志摩市)

■活動目的

- ・志摩市を中心にサイクリング、トライアスロン、マラソン、ウォーキング、トレイルランなどニーズのあるスポーツを地域に根付かせ、地域の資源を活かした取組を通じて地元のさまざまな団体が連携した地域づくりを行なうこと

■主な事業

- ・志摩市を中心にサイクリング、トライアスロン、マラソン、ウォーキング、トレイルランなどニーズのあるスポーツを地域に根付かせ、地域の資源を活かした取組
- ・志摩市サイクリング推進協会を発足し、サイクリングツアー、レンタルサイクルを実施



伊勢志摩サイクリングフェスティバル(写真：志摩スポーツコミッション facebook)

■設立の経緯

◆地元住民がスポーツイベントを開催できるようにする

- ・志摩市には、近畿日本鉄道があることから、近鉄グループが関係するスポーツイベントが多くある。当初、イベントは市役所が中心となり実施してきたが、負担が過大となり問題となっていた。そこで民間団体の必要性が高まり、志摩スポーツコミッションの発足に繋がった。当初は任意団体であった。

◆伊勢志摩・里海トライアスロン大会の開催

- ・まずは地元のトライアスロン大会(伊勢志摩・里海トライアスロン大会)から始まった。大会では志摩スポーツコミッションが事務局や地元の調整などを行なった。この大会は毎年開催されており、年々参加者数が増えている。

■特徴

◆地域の自立を大事にした支援

- ・スポーツイベント等の開催において、地元の組織が動きやすいように志摩スポーツコミッションが事務局機能を担っている。

◆スポーツイベントの参加者を地元宿泊に 誘導

- ・スポーツイベント等の開催では、イベント前日に参加者説明会を開催するなど、地元へ宿泊してもらうような仕組みをつくっている

③ NPO 法人出雲スポーツ振興21(島根県出雲市)

■活動目的

◆理念：「スポーツ振興による地域づくり」

・スポーツの日常化による「元気な市民」の創出。この「元気な市民」による地域活動活性化を共に推進し、「元気な地域」づくりに貢献する。

◆ミッション：「スポーツライフの確立と進展」

①人が健康で豊かな人生を送るため、誕生から天寿を全うするまでの各世代におけるスポーツとの関わりを創出・支援する。

②スポーツの間口の広さを活用し、福祉・教育・環境・経済・観光・文化芸術等々多様な分野との連携を深め、スポーツの軸で結ぶ事業展開を図る。

※スポーツとは遊び、「楽しんでする心身の活動」

■主な事業

- ・ 公共施設の管理運営と有効活用(指定管理)
- ・ スポーツ振興団体の事務局業務(体育協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員協議会、各実行委員会等事務局・平成28年8月現在12団体の事務局機能を担う)
- ・ 市やスポーツ振興団体及び市民が行なうスポーツ・文化活動への支援・協力(介護予防、選手強化、健康増進、障がい者支援、スポーツイベント等)
- ・ 自主事業としてのスポーツ振興策の実施(総合型地域スポーツクラブ設立・育成、高齢者の健康増進・介護予防、緑化推進等)
- ・ 上記にかかわるサービスの提供としての収益事業の実施

<事業紹介：たびーら縁結びRIDE in 出雲>

- ・ 縁結びをキャッチコピーに、女性を主人公として、出雲大社参拝、稲佐の浜など出雲の豊かな自然をスポーツバイクで駆け抜けるサイクリングイベント。
- ・ スポーツバイク初心者から経験者までが楽しめるイベントとして開催され、安全走行を最優先に、環境にやさしいスポーツバイクを使って、出雲市内の自転車道や交通量の少ない観光道路をサイクリングする。
- ・ 各エイドステーション(休憩場所)にご当地スイーツやグルメを準備し、地域のPR、観光振興に結び付ける事業として実施されている。
- ・ イベントの実施にあたっては、地元自治体、地元各種団体、旅行会社などが連携して開催している。



たびーら縁結びライド in 出雲(写真：出雲スポーツ振興21作成資料)

■特徴

◆単なる貸館ではなく有意義な活用方法を提案

- ・出雲ドーム等指定管理者となっている施設については、例えばイベントを開催したい施設利用者に対し単に施設を貸すだけではなく、イベントの準備や効果的な開催方法等、支援やアドバイスを行なっている(コンサルタントのようにノウハウの提供を行なう)。
- ・これにより、リピーターが増える。

◆設立当初から自立を目指した運営

- ・設立は行政が主導で行なったが、発足当時から早期の自立した運営が条件として挙げられていた。自立した団体になるためには、設立当時から自立運営を視野に入れて活動することが重要である。

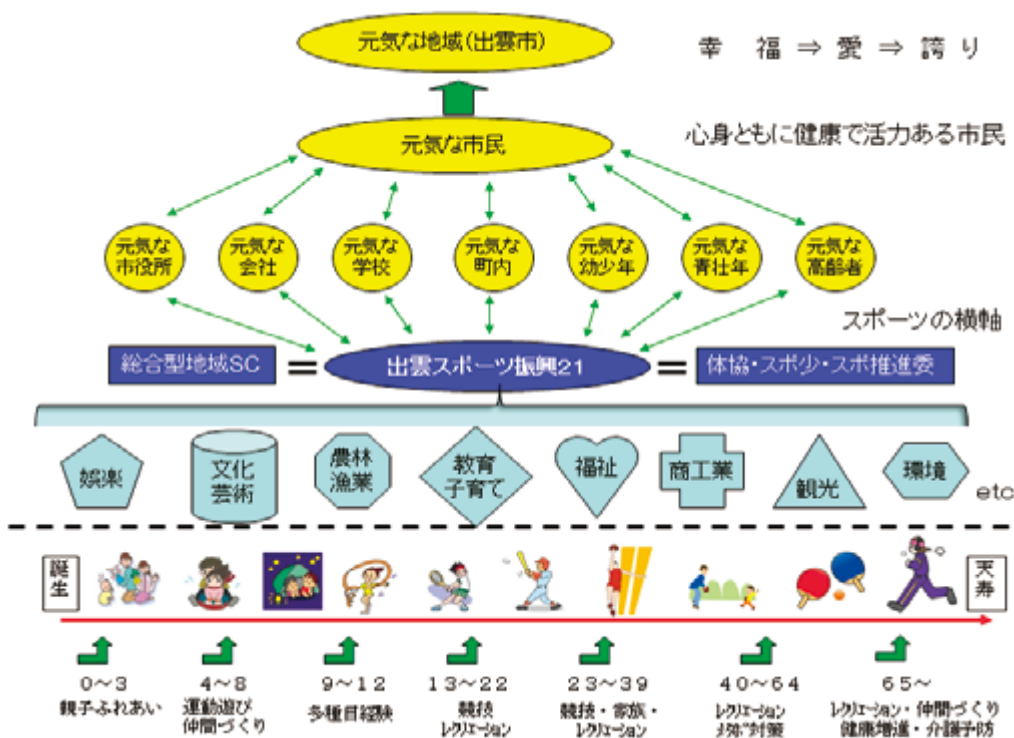
◆スポーツ振興自体が目的ではない

- ・スポーツ振興により人と地域が元気になることを目的としており、スポーツは地域づくりの優れた手段として位置づけている。「スポーツとは遊び：楽しんでする心身の活動」とは、スポーツがスポーツに閉じこもらず、おおらかに手を広げその活動が地域にとって必要な存在となること。

◆スポーツに関わる地域・行政との関係

- ・民間活動として行政と両輪となって地域づくりを進めている。スポーツイベントを通じて、各種団体が連携できる機会をつくっている。
→各種スポーツ振興団体の事務局業務を担っていることから、団体同士のネットワークをつくりやすい。
- ・スポーツのプラットフォームを確立し、最終的には地域づくりのプラットフォームをつくることを目指している(以下イメージ)。
→例えば、行政、観光協会、産業NPO、体育協会、などと連携した事業を行ない、その結果として、出雲版DMOへの進展を図っている。

理念及びミッションのイメージ図



(出典：出雲スポーツ振興21作成資料)

④宇部市スポーツコミッション(山口県宇部市)

■活動目的

- ・市民の多様なニーズに対応した、スポーツ機会の拡大及び健康づくり・体力づくりを推進するとともに、スポーツによる交流人口の増加と地域活性化を推進し、「スポーツを楽しむ元気なひとの元気なまち・宇部市」の実現、「健康長寿のまちづくり」の推進

■主な事業

- ・チャレンジデー、スポーツコミッションフェスタをシンボルイベントとして実施
- ・参加団体企画提案の市民参加プログラム(元気な人づくり促進事業)
 1. 社会福祉法人むべの里提案「カローリング部の設立・大会実施」
 2. (有)末永整骨院・光提案「愛宇部健康プロジェクト」
 3. (株)防長スイミング・サークル提案「早朝ラジオ体操&転倒予防」
- ・宇部市スポーツコミッション認証事業
 1. (株)防長スイミング・サークル主管「競泳パフォーマンス向上プロジェクト」
- ・スポーツヘルスツーリズムの開発実施
 1. スロージョギング®&ダイエットツアー体験会
 2. くすのきカントリーマラソン特別宿泊プラン
- ・オリンピック、パラリンピアンを招待した交流の場の創出
- ・笹川スポーツ財団共同実践事業「指導者派遣促進事業」の開催
- ・人財バンクの活用により、地域における健康体力づくりの機会拡大
- ・市民のスポーツ活動への参加を促進し健康づくりへの意識啓発を図る団体を認証
- ・市民のニーズ、トレンド、レベル等を把握し、動向などを分析した調査
- ・HP、Facebook等の情報発信、各種媒体への情報提供



チャレンジデー2016
(写真：宇部市スポーツコミッションHP)

■特徴

◆スポーツに関するコーディネート機能

- ・スポーツコミッションそのものが直接活動を行なうのではなく、参加団体等が企画提案する活動を支援するといった中間支援組織として機能している。
- ・官民が共同して設立した組織である。(※行政内組織)
- ・健康増進活動を中心とした組織となっている。

◆自立に向けて

- ・現在は、文化・スポーツ課内にスポーツコミッションが存在し、スポーツコミッション専属の人員が1名確保されている。市担当と共同して活動していることもあり、活動費すべてが市の助成金である。
- ・スポーツコミッションが中間支援機能を担っているので、自立は当面考えていない。
- ・しかしながら、行政は組織の自立を考えているとともに活動内容も健康増進以外の活動も考えているなど両者の考えに相違が出ている。

◆行政との協働

- ・官民が協働で設立した組織であり、宇部市のホームページでも紹介されていることから、市民からの信頼度も高い。
- ・組織専属の人員が1名確保されているが、市からの助成金で雇用されていることから今後の自立に課題が残る。

■<コーディネート機能について>

- ・市民活動等関連団体の活動にかかる経費や人材などを支援し、まちづくりに資する住民活動とさせていく機能。
- ・宇部市スポーツコミッションでは、スポーツコミッションそのものは直接活動を行なうのではなく、参加団体等の活動を支援するといった中間支援組織として活動している。

コーディネート機能の例(宇部市スポーツコミッションの取組)

i. スポーツコミッション認証団体制度

- ・スポーツ機会の拡大及び健康づくり・体力づくりやスポーツによる交流人口の増加と地域活性化等に取り組む団体を認証する。それにより、「スポーツを楽しむ元気なひとの元気なまち・宇部市」の実現、「健康長寿のまちづくり」を推進することを目的としている。
- ・主に市民を対象とした活動に取り組んでいる事業所や自治会、学校、スポーツ関係団体等を認証する。

<認証条件>

- スポーツ活動に参加しやすい環境づくり
- 地域のスポーツ活動への参加、支援
- 気軽にできる運動の普及・啓発
- 働く場等におけるスポーツや健康増進に係る福利厚生事業等の実施
- スポーツによる交流人口の増加への取組
- スポーツによる地域活性化への取組
- その他、上記各号に準ずる取組

ii. 指導者人財バンク制度

- ・宇部市スポーツコミッション参加団体等の専門性や豊富な経験を有する多様な人財の活用を促進するため、スポーツ・健康分野の人財登録及び紹介を行なう制度。

<登録条件>

- スポーツコミッション参加団体及びその構成員、又はスポーツコミッション参加団体からの推薦を受けた個人・団体で登録の意思のある者
- スポーツや健康づくりの指導に関し、優れた知識や技能を有し、市民の多様なスポーツ・健康づくり活動を支援することについて熱意のある者

⑤十日町市スポーツコミッション(新潟県十日町市)

■活動目的

- ・十日町市において、市民や団体が連携し、スポーツイベントやその合宿及び関連する事業を通じて、経済的効果や社会効果を発揮させ、地域づくりや地域の活性化に寄与すること

■主な事業

- ・スポーツキャンプ及びスポーツ合宿の拠点としての地域のイメージづくり事業
- ・スポーツキャンプ及びスポーツ合宿の拠点としての環境づくり事業
- ・スポーツキャンプ、スポーツ合宿及びスポーツイベントの誘致及び開催に関する事業
- ・スポーツキャンプ、スポーツ合宿及びスポーツイベントの開催にかかわるワンストップサービス事業
→キャンプや合宿希望チームなどが、宿泊、交通、異業種との連携などが円滑にできるようにワンストップ化を担っている。
- ・各種事業開催に伴う調査、研究及び提言に関する事業



十日町市PRとクロアチアホストタウンPRイベント 田中陽希講演会(2016年12月4日開催)
(写真：十日町市スポーツコミッションHP)

■設立の経緯

◆総合型地域スポーツクラブから自立してスポーツコミッションを設立

- ・十日町市スポーツコミッションは、2002年日韓サッカーワールドカップのキャンプ地としてクロアチアを誘致したことがレガシーとなり、設立された組織である。現在でもクロアチアとの国際交流は継続されている。
- ・当初は、事務局が総合型地域スポーツクラブ（ネージュスポーツクラブ）の中に置かれスポーツコミッション担当の職員が配属されていた形であった。
- ・現在は、スポーツコミッションが総合型地域スポーツクラブ事務局に委託料を支払い、業務全般を委託する形をとっている。
- ・当初、スポーツを活かしたまちづくり・地域活性化を総合型地域スポーツクラブが担うはずであったが、まちづくり、地域活性化をスポーツクラブで担うことがことに理解を得られなかった。このため、まちづくり・地域活性化部分を自立させてスポーツコミッションを設立した経緯がある。

■特徴

◆予算の調達

- ・設立当初は、総合型地域スポーツクラブが新潟県の緊急雇用の事業を活用して、スポーツコミッションの予算に充てていた。
- ・現在は、市からの委託事業(スポーツを通じた地域活性化事業)と会員の会費、その他事業収入が財源となっている。行政からの受託事業中心であり、収益性を伴う自主事業が少なく、経済的な自立には至っていない。

◆さまざまな団体と連携して各種スポーツに対応

- ・市内各種団体と連携してさまざまな取組に対応している(適材適所の団体が対応する)。これを十日町市スポーツコミッションが調整するような形になっている。これにより、十日町市スポーツコミッション自体の経費は低く抑えることができる。

◆スポーツを幅広く捉え、市内の各種団体と連携できるようにしている

- ・身体を動かすことをすべてスポーツと捉え、スポーツ参加の垣根を低くしている。
- ・例えば農作業もスポーツと捉える。
 - 農作業は身体を動かすことから、スポーツと捉える(アグリスポーツ)。身体を動かすためには、健全な食生活が必要であり、その基になるのは農と考えている。将来的には、スポーツと農業を連携させ、地域活性化、地域製品の販売、雇用の創出などの経済的効果、社会的効果につなげていきたいと考えている。(将来的には、生業を農業としたスポーツ指導者を生み出したいと考えている。)

◆各種団体が開催するスポーツイベント等と連携

- ・十日町市スポーツコミッションの中心となる活動は、各団体が開催するスポーツイベントに対し支援を行なうことである。例えばボランティアの提供、他の団体と連携するためのコーディネートなどを行ない、そのスポーツイベントが単なるイベントで終わるのではなく、より地域貢献、社会貢献ができるように支援している。
- ・もともと、繊維産業の衰退に代わる産業創出として、2002年のFIFAワールドカップ日韓大会におけるクロアチアキャンプ誘致をきっかけに、スポーツコミッションの取組がはじめられた。そのため、スポーツキャンプ誘致を様々な分野に波及させようという視点から、スポーツ関係者だけでなく、宿泊、交通、農業、医療、行政など関係者の連携で進められているところに特徴がある。

⑥ NPO法人ピボットフット(東京都大田区)

■活動目的

- ・競技力の向上と競技普及での国際競争力の強化
- ・スポーツ環境の整備とビジネスインフラの構築で基本的な運営構造の改革
- ・地域の総合力の一つとしてのスポーツの価値観づくりと地域への還元及び地域社会づくりへの貢献

■主な事業

- ・バスケットボール、チアリーディング、テニス、クロスミントン、サッカー、機能改善体操、高齢者健康体操などの各種教室の開催
- ・スポーツ、その他イベント開催
→例：地元企業、行政、区民が連携する場として「大田区企業対抗運動会」といったような企画立案・イベントの開催などを行なっている。
- ・フィットネスクラブ
- ・スポーツ部門において講師の派遣
- ・民間スポーツ施設の管理業務(ヤマトフォーラム)
- ・塾教室の開催(寺子屋事業)

■設立の経緯

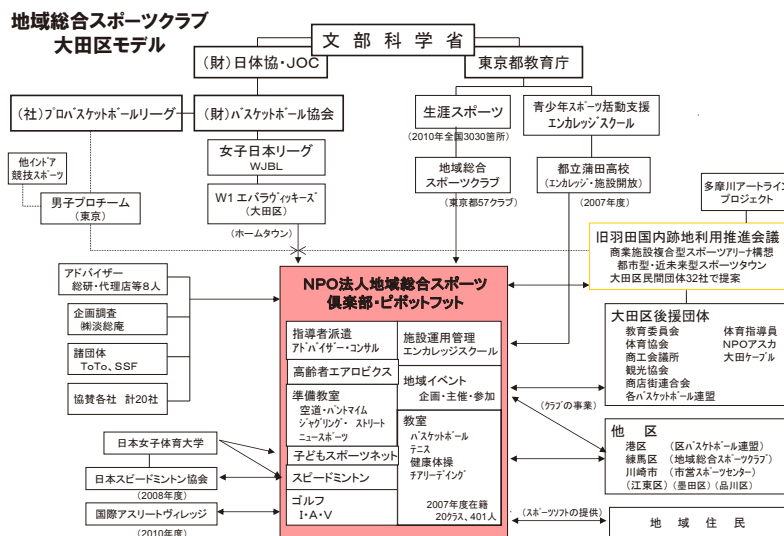
- ・2002年に設立。スポーツを普及するためには、地域スポーツにおいてもその種目のアスリートなどに指導される機会が必要との考えからはじまった。しかし、地域スポーツの指導者のほとんどがボランティアであり、スポーツ指導を生業にすることが難しい。このため、地域スポーツの指導を生業にするための環境づくりとして、設立した。設立にあたっては、バスケットボールを基幹としてはじめた。

■ポイント等

◆地域に関わる様々な団体と連携

- ・地域全体のスポーツ環境を整備するために、さまざまな団体と連携している。たとえば地域にある民間のフィットネスクラブなどの営利団体とも連携しており、地域全体のスポーツ推進に関わってもらっている。
- ・民間のフィットネスクラブとの連携では情報交換だけでなく、指導者派遣なども行なっている。

地域総合スポーツクラブ大田区モデル



(出典：ピボットフットHPより)

◆民間施設の管理、運営を請け負うことによるプログラムの展開

- ・ヤマトフォーラム(ヤマト運輸の体育館)の管理を請け負うことにより、その会場を使ったプログラムを自由に展開することができる。
- ・ヤマトフォーラムの運営をピボットフットで請け負うことにより、ヤマトフォーラムで開催しているプログラムに市民が参加しやすくなっている。これにより、ヤマト運輸の地元市民に対する地域貢献、社会貢献にもつながっている。

◆一流の指導者のプログラムを受けられる環境づくり

- ・プログラムでは、元トップアスリートの指導が受けられるようにしている。ピボットフットとしては、そのようなプログラムを受けられる場所を用意することが重要になる。場所については、主に区内の小中高校や公共施設とヤマトフォーラムを活用しているが、それだけでは足りない。このため、継続的に学校を周り、調整している。
- ・子どもや一般市民に指導したい元トップアスリートは、多くいるはずである。このような人が指導できる場や環境づくりが必要であると考えている。また、スポーツの指導を生業にできる環境づくりが必要であると考え、そのような場づくり、環境づくりに取り組んでいる。

◆人材育成

- ・スポーツによる地域づくりを進めるためには、地域社会のスポーツ資源を活かすようなコーディネーター、組織づくりが必要。その地域に合わせたコーディネートの方が必要だと考えている。地域に合わせたコーディネートの感覚がある人を育てる必要がある。

◆文武両道を目指して

- ・子どもは、受験が迫ってくると塾や予備校などに通い始め、スポーツをする時間を取られてしまう。このため、スポーツと受験勉強が両立できるように、地元学習塾と連携して学習支援も並行して実施している。学習支援は、子どものスポーツの時間を考慮しながら柔軟に時間を組んでいる。

◆他都市のスポーツクラブ等との連携・情報交換

- ・総合型地域スポーツクラブが自立して持続可能な運営ができるように、かつ連携していくために、一般財団法人全国スポーツクラブコミッション*を発足した。ピボットフットはこれに関わり、他都市のスポーツクラブと連携を図っている。

※一般財団法人全国スポーツクラブコミッションとは

- ・スポーツに軸足を置き、地域行政の社会的課題の解決を担う、企画、情報、人、運用実行能力の提供可能な組織としての、「総合型スポーツクラブ」の自立と発展の為に、具体的な事業実施をサポートする組織。
- ・主な事業は下記のとおり
スポーツクラブ間や組織間における事業的相互支援事業 スポーツビジネスに関する調査・研究事業
スポーツに関係する諸団体との事業連携、提携、企画、販売事業
各種スポーツ教室やスポーツ大会・イベント等の企画・開催・運営事業
スポーツクラブ経営者及び指導者等の研修事業、スポーツ指導者の派遣事業
スポーツ、文化施設の管理運営 スポーツ関連機器や商品 書籍等の販売事業
スポーツに関する代理店事業 スポーツ基金事業
- ・平成27年発足

⑦NPO法人高津総合型スポーツクラブSELF(高津SELF)(神奈川県川崎市)

■活動目的

- ・高津総合型スポーツクラブSELFでは、多種目・多世代のスポーツ活動の推進を図るとともに、学校、地域、家庭との連携を図りつつ、スポーツを通して青少年の健全育成及び地域住民の健康の保持増進等を支援し、明るく豊かな地域社会の実現に寄与すること

■主な事業

- ・各種スポーツ教室の開催(40を超えるスポーツプログラムの実施)
- ・スポーツセンターの指定管理業務(2館)
- ・民間のスポーツ施設管理(富士通ゼネラル体育館)
- ・市内小中学校の放課後施設開放の管理
- ・地域のコミュニティづくり、活性化に関わる事業実施
- ・行政からの各種委託事業
- ・周辺の小中学校、養護学校などのスポーツに関わる支援

※常勤スタッフ約30名、アルバイト約30名、講座の講師50~60名で各種事業を展開している。



高津SELF

検索

☆SELF月間活動表

会員は全プログラム受け放題!

*種目によっては対象年齢制限があります。詳しくはお問い合わせください。

★…「オープンエアプログラム」

このプログラムは障がいがあってもスポーツに親しむ機会を一緒に創り出す為のプログラムです。来られる時だけの参加でもOKです。一緒に楽しみ方を探していきましょう。まずは下記の電話番号までお気軽にご相談ください。

◎運営会費 *お支払い時はつり銭のないようお願いします。

【月会費】一般会員：1200円 / 青少年会員(18歳以下)・シニア会員(70歳以上)・障がい者手帳提示：600円 *別途新規時のみカード作成料500円
【年会費】一般会員：10000円 / 青少年会員(18歳以下)・シニア会員(70歳以上)・障がい者手帳提示：5000円 *ファミリー割引あります

曜日	プログラム	時間	会場
月	・英語教室初級(中学生以上)	18:00~19:20	【SELF会議室】
	・英語教室中級	19:30~20:45	【SELF会議室】
	・卓球	19:00~20:45	【高津中武道場】
	・バレーボール	18:30~20:45	【久本小体育館】
	★キッズショートテニス	18:30~19:20	【高津中体育館】
	★ショートテニス	19:30~20:45	【高津中体育館】
	・大人のサッカー	19:00~20:45	【高津中校庭】
・社交ダンス	19:30~20:30	【高津中2F特設室】	
火	・サッカー幼児~1年生	18:30~19:30	【高津中校庭】
	・サッカー4年生	19:30~20:45	【高津中校庭】
	★ニュースポーツ	19:00~20:45	【高津中体育館】
	・フラ&ウクレレ	19:00~20:45	【高津中武道場】
	・フライングフットボール	19:00~20:45	【高津中校庭】
	・野球塾	18:30~20:45	【高津中サブグラウンド】
	・中学生サッカー	19:30~20:45	【高津中校庭】
水	・空手(第2・4)	19:00~20:00	【高津中多目的室】
	・書道(第4)	18:30~20:00	【SELF会議室】
	・少年野球	18:30~20:45	【高津中校庭】
	・バスケットボール	18:15~19:00	【高津中体育館】
	・太極拳	19:00~20:45	【高津中2F特設室】
	・韓国語	19:00~20:30	【SELF会議室】
	・レスリング	18:00~20:00	【高津中武道場】
木	・脳トレ健康講座教室	13:00~16:00	【SELF会議室】
	・茶道教室	13:00~16:30	【高津中茶室】
	★キッズチャンバラ	18:15~19:00	【高津中武道場】
	★殺陣劇教室	19:15~20:45	【高津中武道場】
	・バドミントン	19:00~20:45	【高津中体育館】
	★ウォーキング&ランニング	19:00~20:30	【高津中校庭】
	・ヒップホップダンス	19:00~20:00	【高津中1F多目的室】
金	・キッズ書道(第1・3)	17:00~18:30	【SELF会議室】
	・書道(第1・3)	18:30~20:00	【SELF会議室】
	・ヨガ(第1・3)	10:00~11:30	【高津中特設室】
	・3B体操(第2・4)	10:00~11:30	【高津中特設室】
	・中学生サッカー	19:30~20:45	【高津中校庭】
	・サッカー2・3年生	18:30~19:30	【高津中校庭】
	・サッカー5・6年生	19:30~20:45	【高津中校庭】
土	・小学生バドミントン	18:30~20:00	【久本小体育館】
	・卓球	19:00~20:45	【高津中武道場】
	・ソフト&軟式	19:00~20:45	【高津中サブグラウンド】
	・スペイン語講座	13:00~14:00	【高津中SELF会議室】
	・大人のダーツ	18:00~20:00	【高津中SELF会議室】
	★スナッグゴルフ	9:00~11:00	【高津中テニスコート】
	★ハートクラブ	10:30~12:00	【高津中特設室】
日	・空手(第1・3)	11:00~12:00	【高津中多目的室】
	・囲碁・将棋で遊ぶ会	13:00~17:00	【SELF会議室】
	・レスリング	17:00~19:00	【高津中武道場】
	・走り方教室	18:30~20:45	【高津中校庭】
	★合気道	19:00~20:45	【高津中武道場】
	★バドミントン	19:00~20:45	【高津中体育館】
	・ゴルフ教室	19:30~20:45	【高津中サブグラウンド】

高津SELFプログラム例(高津SELF HPより)

■設立の経緯

- ・設立のきっかけは、以前から、地域の人々がスポーツを気軽にできる機会が必要であるという声があがっていたことである。このことから、地元小学校のPTA有志のお父さんなどが中心になって、小学校の校庭などを使い、小学生のスポーツの場をつくっていた。そのようななか、平成15年に川崎市が主導で総合型地域スポーツクラブの設立準備委員会を発足し、現副理事長が参加した。この準備会が高津SELFの発足のきっかけである。

■特徴

◆地域コミュニティづくりに主眼を置いている

- ・高津SELFは、スポーツを活用した地域コミュニティづくりに主眼を置いている。
- ・高津SELFの当初の目的が、学校と地域をスポーツでつなげることにあったため、川崎市が地元の中学校の中に作ったクラブハウスを拠点に活動を始めることになった。このような背景から、高津SELFでは、スポーツを通じた地域コミュニティづくりやまちづくりに主眼を置いている。

◆自立した運営

- ・設立当初の財源は、日本体育協会からのスポーツクラブ育成事業の助成金で、2年間、300万円の助成があった。助成金を受けている間に会計処理などのノウハウを覚えたこともあり、その後はTOTO(スポーツ振興くじ)からの助成金を受けることができた。スポーツクラブを運営していくためには、会計処理などのノウハウを身につける必要がある。
- ・現在の予算は、プログラムの会費などもあるが、主には、スポーツセンターの指定管理料などの事業委託である。将来的には、指定管理料に頼らない予算の調達方法が必要と考えている。

◆楽しいスポーツを目指す・地域のニーズによるプログラムづくり

- ・地域コミュニティづくりを主眼に置いていることから、競技やスペシャリストをつくるためのスポーツではなく、例えば障がい者も一緒に楽しめるスポーツなど、誰でも参加できる楽しいスポーツ環境づくりを目指している。
- ・たくさんのスポーツプログラムに参加できるように、チームはつくっていない。プログラムは、地域の人々の提案を受けてつくるなど、地域のニーズを踏まえて実施している。そのプログラムも提案した人が協力するので、多彩なプログラムを実施できる。

◆地域の実情をしっかりと把握することに努めている

- ・高津SELFは、地域に関わる団体(町内会、市民活動団体)等との連携を密にしていることや区民と積極的に関わるなど、地域の実情をしっかりと把握している。このため、地域からも理解があり、協力してくれる人も多い。このようなことから、行政に頼らない事業展開が可能である。また、こうしたことから、行政から相談されることも多い。(市からの委託業務を受けることができる。)

◆他都市のスポーツクラブ等との連携・情報交換

- ・高津SELFも一般財団法人全国スポーツクラブコミッション(P116)に関わっており、他都市のスポーツクラブと連携を図っている。
- ・また川崎市内の他の総合型地域スポーツクラブの支援も行なっている。

資料 2

自治体ヒアリング調査結果概要

①八王子市		
1. 八王子市におけるスポーツについて	■八王子市におけるスポーツの力点	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度にスポーツ推進計画を策定。その中では「ライフステージ等に応じたスポーツの推進」、「スポーツをする場の整備・確保」、「スポーツ情報の充実」、「スポーツを活用した地域づくりと八王子の魅力発信」、「2020年オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて」の5つの柱を挙げ、重点的に取り組んでいる。
	■スポーツボランティアからまちづくりの活動に展開した例について	<ul style="list-style-type: none"> 八王子市は、地元町内会、商工会、商店会、体協加盟団体等の各種団体とのつながりが強い。以前から様々な団体と連携しながら進めている。 声をかければたくさんの団体やボランティアが関わるような土壌ができている。
2. スポーツコミッションについて	■スポーツコミッションの必要性を感じる理由	<ul style="list-style-type: none"> スポーツイベントは行政だけでは行なえないため、これまで、さまざまな団体の協力を得て開催している。そうした点で、現状でもスポーツコミッションと同様の考え方で実施しており、必要であると感じている。
	■スポーツコミッションを発足するための課題	<ul style="list-style-type: none"> 各種団体と関わってイベント等を開催しているが、調整やとりまとめは、行政が行なっている。取りまとめを行なう団体があると良い。 体育協会は加盟団体がボランティアに近いので、発足の際のとりまとめまでは難しいと考える。
	■スポーツ関係で連携している民間の活動団体、大学	<ul style="list-style-type: none"> 10年以上前から法政大学のプールを市主催の市民水泳大会の会場として使わせてもらっている。 平成28年夏の高校野球では、八王子市の高校が出場したので、首都大学東京の施設でパブリックビューイングを開催した。 法政大学が地域貢献で行なっている総合型地域スポーツクラブの法政クラブによるバドミントンのジュニア育成事業を実施している。
3. スポーツを活用したまちづくりの取組について	■総合型地域スポーツクラブとの関係	<ul style="list-style-type: none"> 現在はタイアップしている事業は特にない。市内のクラブは、それぞれ自立して運営している。 八王子市には20クラブ、おおむね中学校区単位にある。 クラブには、「全関東八王子夢街道駅伝」や「TOKYO八峰マウンテントレイル」などのイベントをサポートしてもらうことがある。
	■「全関東八王子夢街道駅伝」や「TOKYO八峰マウンテントレイル」の具体的な効果	<ul style="list-style-type: none"> それぞれ実行委員会形式で実施している。 駅伝は市民に浸透しており、地域のアイデンティティになっている。駅伝を通じて、地域の絆ができていると感じている。

4. 2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックに関する取組について	■2020年東京オリンピック・パラリンピックの取組について	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプガイドを作成した。これから各競技団体への周知活動を行なう。 ・現在、さまざまな競技団体や施設を抱えている大学にヒアリングを行ない、どのくらい受け入れられるか検討しているところである。
	■その他の取組について	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプの誘致ができれば、ホストタウンの登録を検討していく。 ・市の取組方針「八王子レガシープラン」を策定した。3つのビジョンと10のアクションを設定し、全庁体制で多彩なレガシーを創出していく。
	■期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ国との文化交流、観光客の誘客、市民のアイデンティティの醸成、市民のスポーツ振興を期待している。
5. スポーツ祭東京について	■スポーツ祭東京における住民ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・1583名のボランティア参加があった。主な活動としては、受付、休憩所の運営、美化活動などのおもてなしの部分である。
	■住民ボランティアの発展	<ul style="list-style-type: none"> ・以前から多くのボランティアが関わる土壌ができていますが、その関わりの幅が広がった。
6. スポーツ資源について	■他に活発なスポーツはあるか	<ul style="list-style-type: none"> ・バドミントン、ミニバス、ネオテニスなどが活発である。 ・高尾山があることもあり、アウトドアスポーツに来る人が多いようである。 <p>※ネオテニス：八王子市発祥のスポーツ</p>

②青梅市		
1. 青梅市におけるスポーツについて	■青梅市における、スポーツの力点	<ul style="list-style-type: none"> ・青梅市では、スポーツ推進計画が策定されており、中には「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」「できるスポーツ」「まなぶスポーツ」「かたるスポーツ」「かせぐスポーツ」の7本柱がある。青梅市では、これらを推進するようなスポーツ施策を行なっている。
	■スポーツボランティア等への参加状況	<ul style="list-style-type: none"> ・青梅市では青梅マラソン大会が一大イベントなので、スポーツボランティアに対する市民の意識が高い。このため青梅マラソン大会開催の際には、特に市が市民に呼びかけることなくボランティアが集まる。ボランティアの内容としては、マラソンランナーへの給水所の設置、太鼓などの楽器を使った応援である。青梅市民には、青梅マラソンを「応援する」「支援する」土壌ができています。しかし、そのボランティアが他に波及した例は把握していない。
2. スポーツコミッションについて	■スポーツコミッションを取り入れるための課題	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツコミッション発足に対し庁内調整が難しい。スポーツコミッションの効果を定量的、客観的に説明できない。 ・コアになりそうな人や団体がいない。青梅市の体育協会は、市からの依頼に対応してもらっただけで精いっぱいである。
	■スポーツ関係で連携している民間の活動団体、大学等	<ul style="list-style-type: none"> ・以前は明星大学があったが現在は体育館などの施設だけになってしまった。その施設については市民開放する日がある。しかし、大学と連携などの関係はない。
	■青梅市の総合型地域スポーツクラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・青梅市には、2つの総合型地域スポーツクラブがあるが、2つともあまり活動していない。市民がボランティアでできる範囲で動いている形である。

3. スポーツを活用したまちづくりの取組について	■青梅マラソンの効果	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に青梅市を知らなくても青梅マラソン大会は知っているという状況である。青梅マラソン大会のおかげで青梅という名前を知ってもらう機会にはなっている。 ・青梅マラソン大会に合わせて、コースを試走するために来訪する人が多い。追跡調査はしたことはないが、市内で食事などをしていると思われる。今後は、このような方々に青梅市をもっと楽しんでもらう必要があると思っている。
4. 2020年東京オリンピック・パラリンピックに関わる取組について	■キャンプ誘致の具体的な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・青梅市カヌー協会は、各国のカヌー協会とつながりがある。また、青梅市はドイツのボッパルト市との交流があるため、ドイツのカヌーチームのキャンプ誘致を行なっている。
	■キャンプ誘致による国際交流のプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ誘致をきっかけに、ドイツとは、カヌーだけでなくサッカーや文化などさまざまな分野の交流を行なっていきたい。 ・青梅市はドイツのホストタウンとして登録されている。
	■キャンプ誘致の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・青梅市には宿泊施設が少ないことがキャンプ誘致の課題である。
5. スポーツ祭東京について	■スポーツ祭東京による市内外でカヌーの認知について	<ul style="list-style-type: none"> ・青梅市ではカヌー協会の協力を得て、年数回のカヌー教室を開催している。カヌーは手間がかかり、気軽に参加できるスポーツではないことから、劇的に参加者が増えるわけではない。しかし、体験会の定員10名～15名に対し、毎回満員となる状況である。
	■視覚障がい者の大会エスコートキッズの取組について	<ul style="list-style-type: none"> ・青梅市は、ゴールボールのパラリンピック選手の出身地であり、その選手にちなんでスポーツ祭東京ではゴールボールの会場となった。 ・子どもたちがゴールボール、さらにはスポーツ祭東京にふれる機会として、市内小学生にエスコートキッズ（選手入場の際に子どもと選手が一緒に入場する）をしてもらった。
6. スポーツ資源について	■市は関わっていないが、市内で盛り上がっているスポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩川でのラフティングが盛んである。夏休み期間は、特に参加者が多い。 ・青梅市の観光資源ではあるが、スポーツと釣りの団体などとの共存に課題がある

③国分寺市		
1. 国分寺市におけるスポーツについて	<p>■国分寺市における、スポーツの力点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、スポーツ振興計画を策定中である。 ・「だれでも参加できる豊かな生涯スポーツ社会の実現」を基本理念に、「豊かなスポーツライフを楽しむ人の拡大」、「誰もが参加できるスポーツ活動の推進」、「スポーツに親しむ環境の整備」を基本目標にして具体的な施策を検討している。
	<p>■スポーツボランティア等への参加状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国分寺市は、スポーツをする人は多いようであるが、その人たちが組織立って何かに取り組むという動きはあまりないようである。 ・課題は、スポーツの拠点となるような施設が少ないことだと感じている。
2. スポーツコミッションについて	<p>■スポーツコミッションの必要性について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・策定中のスポーツ振興計画のなかでスポーツコミッションのような組織形態の必要性について整理している段階である。スポーツを振興するためにさまざまな民間団体と連携する必要性が言われている。 ・そのスポーツコミッションのような組織の中心になる部分を市民が担うという方向で考えている。しかし、そこが難しいところでもあり、そういう意味で中心になる部分は、組織の連携体などの団体とも考えている。 ・スポーツ団体を取りまとめる機関がなく、関連団体が連携する仕組みが必要であることから、スポーツコミッションのような組織形態を検討している。 ・国分寺市としては、秋田県由利本荘市が検討しているスポーツ・ヘルスコミッションを参考にしている。
	<p>■課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・団体も様々な事情があり、連携が難しい。 ・キーマンになりそうな人が市内で見つからない。ただし、中心となるところは、個人ではなく団体がふさわしいと考えている。個人だとその人がいなくなった場合にスポーツコミッションが機能しなくなる可能性がある。 ・他都市の事例をみると体育協会が中心になって民間団体の連携を図っているところがあるが、国分寺市の体育協会では難しい。 ・国分寺市は、体育・スポーツ関係施設が少なく、スポーツ団体からの施設に対する要望は高い。しかし、スポーツをしている市民の割合は多くはなく、一部の要望のために施設を整備することは難しいところである。 ・スポーツ団体は要望が多く、まとめあげることが難しい。
	<p>■総合型地域スポーツクラブとの関係について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こくぶんじ地域クラブとは様々協力しながら事業を行なっているが、スポーツコミッションを担うような立ち位置の団体とは言い難い。レクリエーションを進める団体だと思っている。 ・スポーツをやっている人とやっていない人では、スポーツに対する思いの差が大きい。市の予算は、今スポーツを行なっている人を盛り上げるのか、スポーツを行なっていない人がスポーツをするように盛り上げていくのか使途が難しいところである。 ・スポーツ関連団体を市がどのように盛り上げていくかも課題である。 ・国分寺市のスポーツに関する施策は、市民のスポーツの参加や健康づくりがメインであって、地域の活性化等はそれらが活発になれば必然的に活性化されると考えている。

<p>3. 2020年東京オリンピック・パラリンピックの取組について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国分寺市にゆかりのあるオリンピック選手、スポーツ選手などのトークショーを考えている。 ・練習会場としてパラリンピックの選手に来てもらうことにより、市民にバリアフリーの考え方を普及するような方法もある 				
<p>4. スポーツ関連で交流している大学等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツで交流している大学等は特にない。強いていえば学芸大学の弓道場を市民に開放してもらっている。また総務省の保養施設にテニスコートがあり、そこを市民に開放してもらっている。 				
<p>5. 国分寺市のスポーツ資源について</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="410 528 662 707"> <p>■スポーツ資源について</p> </td> <td data-bbox="662 528 1391 707"> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ資源になりそうなものとしては、散策コースがあるが、それほど長くないので外から来てもらうという雰囲気ではない。 ・武蔵国分寺公園は運動公園ではないので、スポーツ資源としては考えにくい。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="410 707 662 851"> <p>■市内で盛んなスポーツについて</p> </td> <td data-bbox="662 707 1391 851"> <ul style="list-style-type: none"> ・国分寺市としてはあまり関わっていないが、国分寺市は昔から剣道が強いようである。東京都の総合体育大会で毎回優勝や準優勝している。以前から放課後の小学校の体育館などで剣道教室が盛んであった。 </td> </tr> </table>	<p>■スポーツ資源について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ資源になりそうなものとしては、散策コースがあるが、それほど長くないので外から来てもらうという雰囲気ではない。 ・武蔵国分寺公園は運動公園ではないので、スポーツ資源としては考えにくい。 	<p>■市内で盛んなスポーツについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国分寺市としてはあまり関わっていないが、国分寺市は昔から剣道が強いようである。東京都の総合体育大会で毎回優勝や準優勝している。以前から放課後の小学校の体育館などで剣道教室が盛んであった。
<p>■スポーツ資源について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ資源になりそうなものとしては、散策コースがあるが、それほど長くないので外から来てもらうという雰囲気ではない。 ・武蔵国分寺公園は運動公園ではないので、スポーツ資源としては考えにくい。 				
<p>■市内で盛んなスポーツについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国分寺市としてはあまり関わっていないが、国分寺市は昔から剣道が強いようである。東京都の総合体育大会で毎回優勝や準優勝している。以前から放課後の小学校の体育館などで剣道教室が盛んであった。 				

④狛江市		
1. 狛江市におけるスポーツについて	<p>■狛江市におけるスポーツの力点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度にスポーツ推進計画を策定しており、「スポーツを通じた豊かなまちこまえ」を基本理念に、1 スポーツ環境の充実、2 スポーツ・運動を通じた健康づくり、3 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進、4 競技力向上に向けた選手育成、指導者の資質向上、5 施策の実現に向けた推進体制を基本施策として取り組んでいる。
	<p>■スポーツボランティアからまちづくりの活動に展開した例について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・狛江市には特にボランティア登録制度のようなものではなく、スポーツに関するボランティアが他の活動に結び付いたかどうかは把握していない。 ・スポーツ祭東京では、たくさんのボランティアの参加があった。 ・市内の体育施設については指定管理者制度が導入されているが、そこでボランティアによるスポーツごみ拾いが開催されており、これがまちづくり活動に繋がっていると思われる。
2. スポーツコミッションについて	<p>■スポーツコミッションを「あまり必要としていない」理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・狛江市では、各種団体と連携して地域活性化を図るという土台ができています。このため、スポーツ庁が提唱するようなスポーツコミッションの仕組みを新たに取り入れる必要はないと感じています。 ・狛江市は、市域が狭く団体数も少ないため、以前から様々な面で市内の各種団体同士が連携している状況にある。
	<p>■スポーツ関係で連携している民間の活動団体、大学等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・狛江市では、体育協会、総合型地域スポーツクラブ、指定管理者、PTA連合会等と連携してスポーツイベント等を開催している。 ・市内に地区対抗リレーがあるが、これは町会・自治会と体育協会、スポーツ推進委員の会議、総合型地域スポーツクラブ、PTA連合会で実行委員会をつくって開催している。
	<p>■総合型地域スポーツクラブとの関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「狛〇くらぶ（こまわくらぶ）」というクラブがある。立ち上げは行政主導型で創設から6年目になっている。これまでは育成支援のための補助金を出していたが、今後は、自立のための施策について検討している。 ・その他に活動にあたって施設の優先使用を認めている。また、スポーツイベントを連携して開催している。
3. スポーツを活用したまちづくりの取組について	<p>■市民の健康増進に関わるスポーツイベントに力を入れている理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジデーを、気軽に健康づくりの機会をつくることを目的に実施している。

<p>4. 2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックに関わる取組について</p>	<p>■ラグビーワールドカップ・東京オリンピック・パラリンピックに関わる取組</p> <p>■取組にあたって、行政と民間の関わり、役割分担</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックでは、隣の調布市にある味の素スタジアムが会場の一つとなっており、小田急線の沿線では狛江駅が唯一直行バスが運行されている。このため、狛江駅などで狛江市のPRを実施することを検討中である。 ・パラリンピックにちなんで、障がい者スポーツの理解度を深めることを来年度以降に進めていきたいと考えている。その一翼を総合型地域スポーツクラブに担ってもらうことを考えている。 ・ラグビーワールドカップに向けて、狛江市ラグビー協会が平成28年度に立ち上がった。そこを中心にタグラグビーを楽しんでもらう機会をつくることを考えている。 ・行政提案型市民協働事業というのがあり、平成29年度はオリンピック・パラリンピックをテーマにした取組を市民と協働して実施することを検討している。 ・行政提案型市民協働事業とは、おおまかなテーマについては市の方で提示し、具体的な内容については、市民活動団体等と一緒に考えていくものである。
<p>5. スポーツ祭東京について</p>	<p>■スポーツ祭東京では、ボランティアの参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ祭東京の開催期間の美化活動、交通誘導、会場受付などはボランティアに参加してもらった。 ・ここで参加したボランティアが継続しているかどうかは不明である。ただし、参加してもらったことにより、ボランティアへの意識向上にはつながっていると思われる。
<p>6. スポーツ資源について</p>	<p>■狛江市の資源活用について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・狛江市では多摩川利活用実施計画があり、その中で多摩川を活用したスポーツ活動をすることが記されている。この計画は、スポーツだけでなく多摩川を交流拠点として使っていこうというものである。

⑤清瀬市		
1. 清瀬市におけるスポーツについて	<p>■清瀬市におけるスポーツの力点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの取組は生涯学習スポーツ課が中心に行なっている。スポーツの取組で重視しているのは「市民の健康増進」、「子どもの教育」が中心となる。 ・スポーツのプログラムは行政だけでなく、スポーツ施設の指定管理団体が自主事業として行なっているものもある。
	<p>■スポーツボランティアからまちづくりの活動に展開した例について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツイベント等で参加したボランティアが、まちづくり活動に携わった例は特にない。
2. スポーツコミッションについて	<p>■スポーツコミッションについて「どちらかという必要」という理由</p>	<p>サッカーのまち清瀬市推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生の関係で、サッカーのまちづくり推進事業を提案している。そこでスポーツコミッションの考え方が必要であると感じている。 ・清瀬市の課題として人口の社会減少があり、特に若い世代、それも女性の流出が多い。また、同時に合計特殊出生率の低迷も課題である。このため、若い世代の女性、子育て世代の女性に魅力的なまちづくりができていないのではないかとという仮説を立てた。 ・その原因としては、魅力的な地域資源があるにもかかわらず十分に活かされていないことがある。その対応の一つとして、設備面やアクセス面に優れた内山運動公園サッカー場を活用して、市内外にアピールすることで、若い世代にとって関心・魅力を向上させることを検討している。
	<p>■スポーツコミッションを立ち上げる課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内全体の横断的な取組が必要になる。スポーツコミッションには地域振興策が関係するが、生涯学習スポーツ課は教育委員会にあるため、立ち上げには組織のあり方も検討しなおす必要がある。
	<p>■総合型地域スポーツクラブとの関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブへは、市主催のサッカー教室や陸上記録会等のスポーツ事業の運営協力を依頼している。 ・スポーツに関する講習会やセミナー等が通知があれば、情報提供している。
3. スポーツを活用したまちづくりの取組について	<p>■市民ウォーキングについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清瀬市スポーツ推進委員会が主体になって開催している。毎年4月の日曜日に開催している。毎回30名程度の参加がある。
	<p>■ティーボール大会について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清瀬市スポーツ推進委員会が主体になって開催している。10年ほど前から始まった大会。市民が誰でも楽しめるスポーツとしてはじまった。 ・現在は市内の障がい者施設からの参加者が多い。障がい者も参加できるスポーツ事業なので、2020年パラリンピック大会を見据え、続けていきたいと思っている。

4. 2020年東京オリンピック、パラリンピックに関わる取組について	■キャンプ誘致で期待する効果	・オリンピック出場チームが清瀬市に来るだけでも、市のPRになる。また国際交流などが進むと思う。
	■キャンプチームを受け入れるための体制について	・キャンプ誘致に手を挙げている。人工芝のサッカー場があるので、雨の場合の練習場などに使ってもらいたいと考えている。(たとえば、近隣市でサッカーチームがキャンプしてれば、雨で天然芝のサッカー場が使用できない場合に使ってもらうなど)
5. スポーツ祭東京について	■スポーツ祭東京後の女子サッカーイベントについて	・幼児から女子中学生を対象としたサッカー教室を開催している。
6. スポーツ資源について	■市内で盛り上がっているスポーツについて	・市内の新体操教室から、オリンピック競技大会に出場した選手が輩出された。

⑥大島町		
1. 大島町におけるスポーツについて	■大島町におけるスポーツの力点	・20年ほど前にスポーツアイランド計画を策定しており、その中でスポーツを活かしたまちづくりが示されている。
	■スポーツボランティアからまちづくりの活動に展開した例について	・大島には、マラソンや駅伝のキャンプで訪れる大学等のチームが多い(箱根駅伝チーム等)。このようなキャンプに来た大学等のチームを島民全体で受け入れる雰囲気がある。たとえば、練習で公道を走るの、住民が車の運転に気を付けたりする。 ※きっかけは、マラソン選手の有森裕子氏や高橋尚子氏が合宿地として使うようになったこと。
2. スポーツコミッションについて	■スポーツコミッションについて「どちらかという必要」という理由	・大島町では、平成26年度の基本構想、基本計画、総合戦略に、スポーツを通じたまちづくり、地域の活性化が記されている。スポーツイベントを通じて、島の良さを来た人に伝えたい。このようなことからスポーツコミッションのような組織が必要であると感じる。 ・2020年のオリンピック・パラリンピックについてもキャンプ国誘致を検討しているので、スポーツコミッションが必要であると感じている。
	■スポーツコミッションへの期待	・大島町では、参加型、体験型のスポーツに取り組み、地域の活性化に活かしたいと考えている。そのためには、スポーツコミッションのような組織が必要だと感じている。
	■課題	・スポーツイベントには多くのボランティアが参加するが、行政がリーダーシップをとることが望まれており、行政頼みになっている点が課題である。
	■スポーツ関係で連携している団体について	・駅伝等に出場している大学陸上部(合宿をきっかけに) ・大島では国体で相撲を誘致した。国体をきっかけに東京都相撲協会と連携している。 ・江戸川区とはマラソン関連で交流がある。大島をPRしながら江戸川区で開催されるマラソン大会に参加している。また江戸川区民も大島の大会に参加している。江戸川区のマラソンのスタート又はゴール地点で、大島の観光物産ブースを設けている。

3. スポーツを活用したまちづくりの取組について	■ウルトラランニングについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ウルトラランニングとは、毎年開催されているマラソン大会である。島外の人も多く参加する。走る距離は100km(島2周)におよぶ。 ・町民は、ボランティアで運営の手伝い(たとえば水分やバナナの配布など)や、大島の特産品の配布などを行なっている。 ・町民の当大会へのボランティア参加は、習慣になっている。ボランティアの取りまとめは、ウルトラマラソン実行委員会が行なっている。
	■ロードレースについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ロードレース(自転車)リオオリンピックアジア予選を大島で開催した経緯から、最近はサイクリストが増えている。今後はロードレースにも力を入れていきたい。
	■ジオパークを活かした取組	<ul style="list-style-type: none"> ・三原山がジオパークに指定されており、これを活かした取組が行われている。大島の三原山の火山活動を物語るジオパーク、ツバキの島・利島など島しょ部特有の観光地を形成している。
	■スポーツイベントにおける行政と民間の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・海運会社がスポーツ関連イベントを企画立案し、イベントを開催しており、町内のイベント開催主体として大きな役割を果たしている。 ・大島はジオパークに指定されていることから、ジオパーク講座を開催している。 ・民間の方からジオパークという地域資源を活かした企画を提案してもらっている。
4. スポーツ資源について		<ul style="list-style-type: none"> ・マリンスポーツが盛んであるが、島外の方が運営(ショップやイベント)している場合が多く、住民と連携しているとは言い難い。

資料 3

住民等アンケート調査関連資料

ケーススタディで実施したボランティア関連のアンケートにおける自由意見を掲載する。

<p><一般></p> <p>マラソン＝青梅というイメージが強すぎるが、地理的・地形的に致々のスポーツに適した環境にあると思う。スポーツ市場の多様化に対し個性あるイベントの取り組みが期待される。ワークライフバランスを重視する人も増加しており地域内外の動きが見込めると思う。交通インフラの整備が課題であるが、まずは市内で行われているスポーツを見極めSNS等を活用しイベント等に取り組んでいければと思う。</p> <p>陸連の方たちは大変だと思う。夏の大会など高齢の役員の方が多く、心配になったことがある。若い世代にも声をかけ、青梅マラソン大会だけでなくほかの大会でもみんなで支援していけるように広がるといいと思います。</p> <p>特にアウトドアスポーツについては愛好者自身の一定のルールが必要であるとともに、フィールドを管理する行政や地域も規制だけではなく提供することでまちづくりや地域の活性化に生かしていただけたらと願います。</p> <p>青梅市については施設の老朽化の対応および閉鎖した施設の放置が問題。表題を考える前の問題の解決が先である。</p> <p>施設の充実</p> <p>青梅市は行政だけでなく地域の自治会・自主サークルなどのスポーツが盛んであるが、団体の高齢化が進み若い人たちの参加が減少している。若い人たちの参加が望めるスポーツの普及が地域の活性化につながるのではないかと考えている。</p> <p>人気のあるスポーツ以外のスポーツもスポットを向けられるような取り組みが必要</p> <p>青梅マラソンなど有名なイベントであれば東京から来る人も多く、宿泊などにより地元にお金が落ちますが、ボルダリングやラフティングなどは日帰りの人がほとんどで、特に買い物をしていくことも少ないので地元にお金が落ちていかない。地元の人たちが潤わないのでは活性化が進まないでその手立てを今後考えていただきたい。</p> <p>孤立しがちな高齢者が運転できる場所、機会を提供する。孤立解消、認知症予防、医療費削減を目指す。</p> <p>今回初めてボランティアとして携わりますので、来年度気づくことがあれば報告します。</p> <p>運動会の実施とかはどうでしょうか？</p> <p>青梅市として様々なスポーツイベントを行っており、今後も継続して取り組むことがスポーツを生かしたまちづくり、地域の活性化につながると思っています。</p> <p>地元の市民クラブが根付き、そのクラブを応援し市外・国外へと出ていくことが重要では</p> <p>スポーツを活かしたまちづくりを行うには様々な活動、サポートを有償にすることが大切。無償(ボランティア)活動は一見美しいが、まちづくりとしてはインパクトがなく雇用も生まれない。まちとして「しっかり稼ぐ」ことが重要で、稼いだお金をまちのなかで「しっかり回す」ことでまちの血流がよくなる。無償＝善という見方を脱却してほしい。</p> <p>スポーツ習慣のない子供が増えている。少子化による絶対数の減少に加え、わざわざケガをさせたくない親の心理もある。ケガに対する予防やフォロー体制などを親に啓発し、良い面だけでなく悪い面も示しバックアップ体制を見せることで安心感が生まれる。</p> <p>青梅マラソンは市外、国外へと広まり参加者が増えたのは良いことだが、青梅市内の住民が参加することが年々難しくなっている。市民参加枠などがあればよいと思う。</p> <p>競技施設の充実とそれを利用した各種大会の開催</p> <p>明星大学を買い取り合宿所やトレーニング施設にして一流の選手から小学生の子までたくさんの方が利用できる場をつくってほしい。</p> <p>スポーツは地域活性化に一番の近道であるが、定着させるには企業と住民の協力や努力が必要である。ボランティアも地域の人たちだけでなく、広く全国に呼びかけたほうがよいと思う</p> <p>毎年、スポーツイベントの参加費は値上げしているように思う。子どもや高齢者等、誰でも参加できるスポーツイベントにしてもらうには、大会関係者やボランティアの費用(お礼、弁当、グッズ代等)を削減し、参加費を抑える努力が必要</p> <p>地域性を活かしたスポーツ(山・川)がよい。・高齢者を元気にするスポーツが必要。・スポーツによる住民間交流と観光スポーツの同時進行が必要。</p> <p>青梅市＝青梅マラソンが有名と言われることが多く、これからも大会を大切に育てていくことが好ましいと思う。継続的にできるよう無理のないようにしていただきたいと思います。</p> <p><高校生></p> <p>サッカースタジアムを作ってほしい</p>
